

巻 頭 言

広島大学大学院教育学研究科
研究科長 棚 橋 健 治

『広島大学大学院教育学研究科紀要』第58号を刊行しましたので、ここにお届けいたします。

本紀要は、研究科に所属する教員ならびに大学院学生の研究成果を社会に対して発信するひとつの場です。教員や大学院生は、研究成果を各々が所属する学会等で発信しており、各学界において、各々、評価を受けておりますが、この紀要では、それら様々な学界で発信されている本研究科の研究力が集約されています。

したがって、本紀要に対して皆様からいただく忌憚のないご批判やご意見は、論文執筆者自身の研鑽・成長に繋がるとともに、研究科における研究の活性化・発展に繋がると考えております。特に学外あるいは研究科外からのご批判やご意見をいただければ幸甚に存じます。

広島大学大学院教育学研究科における研究の目的は、理論的研究と実践的研究の統合、学際化、先端化を推進することにより、21世紀を切り拓く新たな教育諸科学の学問体系を構築すること、ならびに幼児から老年に至るまでの教育、学習、人間発達等にかかわる諸課題を総合的・学際的に研究し、現代社会のニーズに応えることです。したがって、教育学、心理学の理論研究、実践研究とともに、幼児教育、初等教育、中等教育、高等教育そして生涯学習に至るまで、あらゆるライフステージにおける「学び」を研究対象にしています。そのため、本研究科だけでミニ・ユニバーシティを構成しているといえるほど多様な研究がなされており、それに対応して本研究科紀要は、三部構成としています。すなわち、学習の価値・原理・方法、初等教育の学習方法やカリキュラム、障害のある子どもの学習支援などを究明した第一部、幼児から老年に至る科学文化・言語文化・生涯活動文化に関わる教育・学習の意義や目標・方法・内容などを究明した第二部、教育の理念や歴史・制度・政策、高等教育、人間形成の心理的メカニズムなどを究明した第三部です。

本年度は、第一部に21編、第二部に42編、第三部に38編の合計101編の研究論文を収録いたしました。各分冊の巻末には、他の分冊に収録している論文の題目と執筆者名も記載しておりますので、併せてご参照いただけましたら幸いに存じます。また、冊子体とともに、広島大学図書館ウェブサイトの「広島大学学術情報リポジトリ」でもご覧いただけます。検索やダウンロード、プリント等ができます。本紀要に収録しました執筆者の他の論文等も併せてご覧いただけますので、是非、ご活用ください。

最後に、本紀要の読者各位、論文を投稿下さいました執筆者各位、編集の労を執ってくださいました編集委員各位をはじめとして関係の皆様方に心より御礼申し上げます。